

世界農業遺産 みなべ・田辺の梅システム 認定 10周年



継承される みなべ・田辺の梅システム

2015年12月、400年前から受け継がれてきた持続可能な梅を中心とする農業システムが世界農業遺産に認定されました。みなべ・田辺地域では、薪炭林を残しつつ、山の斜面に梅林を配置することで、梅の花の受粉におけるニホンミツバチの利用や里山・里地の自然環境の保全により、豊かな農業生物多様性を維持していることなどが、高く評価されました。

History 認定からこれまでの歩み

2016年	1.21	世界農業遺産3地域新規認定記念シンポジウム（農林水産省）
	3.25	「みなべ・田辺の梅システム」世界農業遺産認定記念フォーラム
	5.20～6.20	ロゴマークの募集
	11.16～11.17	世界農業遺産に関する勉強会の開催
	11.20	「うめえ！うめまつり2016」東京スカイツリータウン® ソラマチひろば
2017年	3.20	「みなべ・田辺の梅システム」フォーラム（ロゴマーク最優秀作品発表）
	5.9	GIAHS活用プラン承認（推進協議会総会）
	11.19	「みなべ・田辺の梅システム」フォーラムin東京
2018年	1.22～1.23	東アジア農業遺産学会（ERAHS）準備会合及びワークショップ
	8.26～8.29	みなべ・田辺地域で第5回東アジア農業遺産学会（ERAHS）開催
2019年	6.26	世界農業遺産等専門家会議によるモニタリング調査（農林水産省）
2020年	12.15	認定5周年記念事業動画配信開始 つなげよう！未来へのバトン！ ～みなべ・田辺の梅システムを次世代につなぐ～
2023年	8.1	世界農業遺産等専門家会議によるモニタリング現地調査

アトラクション

和歌山県指定無形民俗文化財
「名之内の獅子舞」（みなべ町清川）



南部川源流域のふもと約4kmにわたり約60戸が点在する名之内地区、古くから炭焼きを主に、梅や田畑を耕す生活をしている地区で、清川の炭焼きは技術および品質においては大変良質であり、他地区からの見習い技術の習得に多くの人々がこられたとの事です。その地区に伝承されている名之内の獅子舞であり道中囃子、幣の舞、乱獅子、剣の舞の4曲3舞が継承されていて、一度に10数人の吹く笛や、熟練された者が打ち鳴らす大鼓や交互に舞手が素早く入れ替わる獅子舞等が見どころです。本日は剣の舞を披露して頂きます。剣を持ち舞っている間に、突然剣を落とし、難行苦行の末、抬い上げ喜ぶ様を表現しています。



MINABE-TANABE
UME SYSTEM
詳しくは梅システムの
ホームページで。
<https://www.giahs-minabetanabe.jp/>

GIAHS UME SYSTEM 10th anniversary

世界農業遺産

みなべ・田辺の

梅システム

認定

10周年



令和7年

10月17日

金

午前10時
午後3時



ガーデンホテル ハナヨ
ハナヨアリーナ
田辺市文里2丁目36-40



記念式典 & シンポジウム / 農業遺産関連の展示

主催 みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会 後援 農林水産省



ご挨拶

このたび、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」認定10周年を迎え、皆さまをお迎えして記念式典を開催できますこと、大変嬉しく思います。

この10年間、地域住民の皆さまや生産者・関係者の方々が丸となり、豊かで持続可能な地域社会を目指して様々な取り組みを行ってくださったおかげで、私たちの地域農業の価値が世界でも評価され続けています。

「みなべ・田辺の梅システム」は、ただ単に梅を栽培、加工する技術や伝統だけを指すものではなく、林業などとも連携した共生型の農業スタイルで、私たちが自然とともに生きる知恵と文化を持続可能な形で後世に伝えるための仕組みであり、地域の財産であります。

変化の激しい社会や環境の中で、これからの10年、そしてその先を見据え、地域特有の価値をさらに高め、若い世代への継承を進め、次世代が誇りを持てる地域づくりを進めていきたいと考えています。

本日の式典が皆さまにとって有意義なものとなり、これからの未来へ踏み出すきっかけとなることを願っています。今後とも「みなべ・田辺の梅システム」へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会会長
みなべ町長 山本 秀平

プログラム

10:00 **アトラクション** 名之内の獅子舞（みなべ町清川）和歌山県指定無形民俗文化財

10:20 **開会挨拶**

10:25 **来賓祝辞** 和歌山県知事 宮崎 泉氏
公益財団法人地球環境戦略研究機関 理事長 武内 和彦氏
農林水産省農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課 農村環境対策室長 吉見 友弘氏

10:50 **基調講演** 「みなべ・田辺の梅システムの世界的意義とその未来」
世界農業遺産等専門家会議委員長・東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授 八木 信行氏

11:30 **地域の取組展示、認定地域の展示 / 昼食**

13:00 **新たな取組事例**

① **和歌山発！農業遺産が創るウェルビーイングな人と地域**

一般社団法人日本ウェルビーイング推進協議会 代表理事 島田 由香氏

② **梅干という EARTH FOOD（ビデオレター）**

2025 大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー 小山 薫堂氏

万博漬け～2050年に向けて

株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ 代表取締役副社長 萩尾 友樹氏

14:00 **パネルディスカッション** 「未来へつなぐ みなべ・田辺の梅システム
～世界農業遺産認定10周年を迎えて～」

農業遺産アドバイザー（元国連大学客員研究員） 永田 明氏

15:00 **閉会**

基調講演

八木 信行氏 世界農業遺産等専門家会議委員長・東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授



1987年農水省入省。2008年東京大学大学院特任准教授、2011年東京大学大学院准教授、2017年より東京大学大学院教授。
農林水産省世界農業遺産等専門会議の委員長。
国連食糧農業機関（FAO）世界農業遺産（GIAHS）プログラムの科学アドバイザー
会合委員（2019-2023年）、2022年は議長も務める。
専門は地域開発論、水産経済学、マーケティング。

新たな取組事例

島田 由香氏

一般社団法人日本ウェルビーイング
推進協議会 代表理事



慶應義塾大学卒業後、パソナを経て、米国コロンビア大学大学院にて組織心理学修士号取得。日本GEにて人事マネジャーを経験し、2008年ユニリーバ・ジャパン入社。

2014年より取締役人事総務本部長に就任。人のモチベーションに着目し「WAA」など独自の人事施策を多数実行、同社はForbes WOMEN AWARDを3年連続受賞した。2017年に株式会社YeeYを共同創業し代表取締役就任。

小山 薫堂氏

2025 大阪・関西万博
テーマ事業プロデューサー



放送作家、脚本家。京都芸術大学副学長。1964年熊本県生まれ。「料理の鉄人」「世界遺産」など多数のテレビ番組を手がけ、映画「おくりびと」で日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞。「Stand Alone/森麻季」や「ふるさと/嵐」の作詞も手がける。「くまモン」の生みの親でもある。執筆活動の他、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人、大阪・関西万博では、テーマ事業プロデューサーを務める。

萩尾 友樹氏

株式会社 オレンジ・アンド・パートナーズ
代表取締役副社長



1978年生まれ。2006年オレンジ・アンド・パートナーズ創業時より、創業者・小山薫堂の下で企画プロデューサーとして様々なプロジェクトに参画。クリエイティブとビジネスを融合するコミュニケーションデザインとプロジェクトマネジメントを軸に、企業やプロダクト等のブランディング、地域活性プロジェクト、ホテルや商業施設のコンセプトメイク等、ジャンルを問わず多岐にわたってプロデュースを手がける。

パネルディスカッション

コーディネーター

永田 明氏 農業遺産アドバイザー（元国連大学客員研究員）



2011年に農林水産省から国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）に派遣され、開発途上国の若手農業研究者の研修事業などのコーディネーターを担当する傍ら世界農業遺産（GIAHS）に関する研究に従事した。2011年6月、中国・北京で開催された世界農業遺産国際フォーラムに日本から初めて出席した。「みなべ・田辺の梅システム」をはじめ、日本だけでなく韓国、中国、インドネシアなど海外の世界農業遺産の認定申請に協力し、国内外で世界農業遺産に関する講演を多数行ってきた。「農業遺産の伝道師」を目指し、現在も「農業遺産アドバイザー」として活動を続けている。

パネリスト

山本 宗一郎氏
梅農家



みなべ町清川で80年続く梅農家の3代目。少子高齢化と後継者問題に向き合い、耕作放棄地の伐採や、ウバメガシの植樹活動、梅の枝の剪定研修などを通じて若手、新規就農者の育成にも取り組んでいる。全国農業青年農業者会議で、「うめ産地を未来につなげる伐採班の活動」を発表し農林水産大臣賞に選ばれ表彰される。

北川 弘泰氏
秋津川振興会 会長（里山保全）



和歌山県田辺市秋津川出身。田辺市役所を退職後、梅農家を営営する中、令和5年5月会長に就任。道の駅紀州備長炭記念公園を中心に紀州備長炭の後継者育成と情報発信に努めるとともに、里山保全のため耕作放棄地へのウバメガシの植樹事業や、択伐事業の推進と作業道の開設に取り組んでおり、紀州備長炭の次世代継承のため積極的に事業を展開している。

濱田 朝康氏
株式会社濱田（若梅会 会長）



和歌山県田辺市上芳養石神の小さな村で生まれ育ち、江戸時代から続く梅づくりに支えられてきました。梅は古来より日本人に愛され、令和の年号の由来にもなった果樹です。私はこの文化と故郷を未来へつなぐため、梅の魅力を世界に広めることに挑戦しています。

和歌山県立神島高等学校（地元高校）
橘谷 日菜さん、福島 シュウさん、那須 正樹教員



「梅の魅力を伝えたい」というテーマで、特産品である「紀州南高梅」の消費拡大に協力できるように、「梅」を用いた商品開発やレシピ開発、イベント販売やイベント企画などに取り組んでいる「神島屋」の活動に1年次から参加している3年生二人。（神島屋では年間に30回程度のイベント販売を実施しています。）

和歌山県立南部高等学校（地元高校）
大崎 拓さん、細谷 慧さん、谷口 和久教員



「味来（みらい）」を耕そう！「食」のトータルプロデュースがキャッチフレーズの食と農園科。3つのコースがあり、生徒2名が所属している調理コースでは、地域資源を有効に活用した新しい商品開発や、地域イベントでの実習などに取り組んでいる。